

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070201542		
法人名	医療法人梓誠会 梓川診療所		
事業所名	グループホーム あずさ小町		
所在地	長野県松本市梓川梓2344番地1		
自己評価作成日	平成28年11月26日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2070201542-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成29年1月25日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>○年間を通して梓川西保育園、梓川中学校、ボランティアとの交流を行っています。 ○花や野菜などを育て、収穫の喜びや季節を感じて頂いています。 ○ご利用者と一緒に月1回食事作りを実施し、作る事、食べる事を楽しんでいます。 ○ターミナルケアに力を入れております。ご家族、医療機関、職員との連携にて安心して終末期を迎える事が出来るように支援しています。</p>
--

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>寝たきりの利用者1名、車椅子利用者4名、車椅子と歩行器利用者1名、歩行器利用者1名、杖利用者1名、自立1名で、介護度5が4名、4が2名、3が1名、2が2名と、重度化がさらに進んできています。 このような中でも、理念に掲げてあるように「一人ひとりが、人生の最終章にふさわしい生き方が出来る施設を目指す」ために、このグループホームが取り組んでいることなどを述べたい。まず、利用者の健康を支える診療所が、廊下を隔てて隣接している。そして、看護師が常勤し、毎日バイタルチェックを行い、医師の受診や見守りがある。また、入居する時からターミナルケアの話があり、いつでもこれらの相談が受けられる。そして、ターミナルケア時においては、利用者の最期を見守るために家族・職員の心構えについて十分な話し合いがある。こうして利用者は人生の最終章を安らかに迎え、家</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが集まるエントランスホールに理念を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で音読し、日々の仕事につなげています。	「一人ひとりが、人生の最終章にふさわしい生き方が出来る施設を目指す」という理念を基に、4つの行動方針を立て、年度ごとに運営方針を話し合い、実践につなげている。そして、具体的な事業計画や年間行事計画に反映させ、実績を積み上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	梓川西保育園児、梓川中学校の生徒との交流を行っています。地域のボランティアの方々に常に受け入れ、交流を図っています。	近くの保育園とは運動会を参観したり、グループホームに来てもらったりして交流を継続している。また、地元の中学生の体験活動を積極的に受け入れたり、地域や職員を通じての様々なボランティアを受け入れたりして、地域とのつながりを深めようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、包括支援センター職員と2か月に一度は話し合いを持ち、情報交換を行っています。また、認知症介護の相談体制を整えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話や他のグループホームの情報などは、ミーティングで取り上げたりして改善につなげています。	包括支援センター職員、民生委員、家族代表、他グループホーム職員の参加を得て、2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では、「口腔ケア、パットやオムツの使用、ターミナルケア」などの具体的な内容が話し合われ、成果を上げている。	これまでの懸案である「地域の自治会との関係を作り」を進め、運営推進会議に参加を得て、地域との連携をさらに深めていくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には包括支援センター職員が来られるので、積極的に連携を取っています。グループホームの「小町だより」や法人の「あのねだより」を渡し、見て頂いています。	運営推進会議には包括支援センター職員に毎回参加してもらい、いろいろな助言を得ている。また、グループホームの「小町だより」や法人の「あのねだより」を通して、グループホームの取り組みをいろいろな面から見てもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り時に話し合っ、常に安全面に配慮しています。危険と思われる時は必ず一人付き添っています。	現在、身体拘束を行っている事例はない。利用者が不穏な様子を見せる時には付き添い、外に出て行く時には一緒に付いていくようにして対応している。また、虐待防止の勉強会を開き、職員に周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加したり、ミーティングの場で問題点を話し合ったりしています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会に参加して、理解できています。相談があれば活用する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をしているので納得されています。問い合わせ時にも理解が得られるよう説明しています。また、施設見学に来て頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との対話の時間を大切に、話し合う機会を持てるよう「意見箱」を設置しています。家族会の時に意見・要望を聞き、運営推進会議で話し合っています。	家族会は4月、8月、12月の年3回開催している。一昨年度に日曜日に開催してから家族の参加が多くなり、家族からの意見や要望がいろいろ出るようになってきた。また、家族会の機会に利用者・家族・職員が一緒になって昼食を摂り、親しく話し合うことができ、効果を上げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで職員の意見を聞き、反映出来るようにしています。また、管理者と主任が、同一法人施設の各部署の責任者が集まる会議に参加し、全体の問題として話し合っています。	月1回のミーティングや勉強会、日々の打合せは職員の誰でもが意見を出しやすい雰囲気がある。また、それぞれの職員が同一法人内の各部会(安全衛生防災・食事検討・旅行・広報など)に分かれ、他の施設の職員と共同して仕事を行うようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員への面談を実施し、相談役の面談を通して、職場環境の改善やスキルアップにつなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や勉強会にはなるべく多くの職員が参加出来るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホーム職員の方々と交流する機会を作っています。そして、お互いの運営推進会議に出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や施設見学で、ご本人の要望・希望を取り入れて、安心・安全な生活を送って頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や施設見学で、ご家族の要望や困難状況を伺い、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の望むサービスの提供をすると共に、ご家族の支援もしていきます。また、ご本人の身体の状況を見ながらサービスの計画を立てています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に適した作業を一緒に見つけ、職員と一緒に達成感を味わうように努めています。ご利用者同士が協働しながら生活できるように場面作りや声かけをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見・夏祭り・クリスマス会などのイベントなどもご家族に参加を呼び掛け、一緒に楽しんでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、外出・外泊の機会を設けています。また、美容室で毛染めなど行い、地域の方とも顔見知りになっています。	家族と一緒に自宅へ帰ったり、美容室に行ったりする利用者にはできる限りの支援を行っている。終末期を迎えている利用者も、自宅に帰って、よい時間を過ごすことができたようだ。また、家族・親戚・知人が訪問する時には、フリースペースや居室を使って話しやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションや誕生日会、昼食作りなどの行事に参加して、皆で喜びを共有しています。ご利用者同士の関係が良くなるように職員が調整役となって支援しています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、相談があれば受け入れるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と1対1でゆっくり話ができる時間を作り、相談相手となり、希望や意向をとらえています。そして、その希望や意向が担当に届くように「個別記録」に毎日記入し、担当はそれを見て密接な関わりを図っています。	職員が利用者一人ひとりとの会話を大切にしたり、利用者の状況把握を重視したりして、毎日の「個別記録」にその希望や意向を把握できるようにしている。担当職員はその「個別記録」を基に、利用者が自分でできることを見つけ、目標となるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの生活歴や情報収集を行ったりして、ご本人の持っている力を引き出しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりの様子を観察し、把握に努め、各自のペースに合わせた生活が出来るようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンスを行い、担当者等の意見を聞き、介護計画を立案し、実施しています。	担当職員は「個別記録」を基に「評価票」を作成し、全職員参加のカンファレンスで話し合い、「ケースカンファレンス」にまとめている。そして、利用者が自分の居場所があり、自分の力を発揮できる介護計画になるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個別記録」に記入して、ミーティングで統一を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の診療所・老人ホーム・リハビリテーションと連携して、ご本人が希望するサービスが利用出来るようにしています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同一法人施設とのレクリエーションやボランティアなどの行事に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を大切に、24時間体制で安心した生活を支援しています。ご家族の希望があれば他の病院も紹介しています。歯科の受診もしています。	隣接の診療所には内科の医師が2人いて、24時間体制で利用者が健康な生活を送ることができるようになってきている。看護師による毎日のバイタルチェックはもちろん、時間があれば利用者の様子を診てくれる医師の存在は、大きな安心感を与えている。また、隣接のリハビリテーションを活用することもできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常に存勤して、「個別記録」の保健・健康欄に詳細な記録をとり、ご本人の体調管理を行っています。特変時の医師への連絡・対応や相談、アドバイスも受けられるようになっていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	記録や内服薬などの情報提供を行い、お見舞いなどで様子を伺ったり、ご家族との連絡を取ったりして様子を把握しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族と医師・職員で終末期の話し合いを行い、方針を共有して、その方にとって最良の支援となるようにしています。	このグループホームの理念に掲げてあるような「人生の最終章にふさわしい生活」が送られるような配慮と支援が十分なされている。訪問当日も、実際にターミナルケア最中の利用者が2人いて、いつでも職員の目が届くエントランスホールにベッドを置いて見守られている状況であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを備えたり、年1回の救急手当の勉強会に参加したりして、職員全員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回同一法人施設の訓練に参加し、各部署でも行っています。また、一斉連絡配信システム(オクレンジャー)で送信訓練も行っています。	9月に法人全体の避難訓練を行い、3月にはグループホームだけの避難訓練を予定している。2階に居室があるため、居室にはヘルメットやさらし紐を備え、いざという時のための避難活用を想定している。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや言葉遣いには注意して、日々のケアにおいてプライバシーを損ねない配慮をしています。	利用者の心に伝わりやすい名前をさん付けで呼ぶようにしている。また、方言を使うと昔を思い出すことが多いが、ていねいな言い方をするようにしている。そして、否定的な言葉かけにならないよう、プライバシーを損ねないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向に沿って生活できるように、職員は統一した支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ご本人に合わせた暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、散髪を行っています。ご家族の希望や季節に応じた衣服を職員が提供しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられる量や形など一人ひとりに合ったように提供しています。また、配膳や後片付けは各自で行っています。	利用者の健康と安全を第一に考え、昼と夜の食事は、汁とご飯以外は業者の委託である。そのため、月1回は、利用者の希望を採り入れた献立で、利用者と職員とが一緒になって食事作りをして、楽しく会食している。また、ターミナルケアの利用者には、自分の好む食事を提供して、最期を迎えるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調などを把握して、食べられない時には形を変えたり、栄養補助食品などを提供したりして、体力維持が出来るように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけ、見守りをし、出来ない方には職員が支援して清潔保持に努めています。歯科の往診が月2回あり、口腔ケアが充実しています。		

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンを把握したり、また、声かけや時間での誘導を行ったりして、その方に合わせた支援をしています。	利用者はオムツ使用3名、パンツ使用6名で、日中は排泄チェック表を活用し、トイレ誘導やパットの確認を行っている。夜はトイレのために起こすのではなく、朝起きた時にトイレ誘導し、パットを確認している。こうすることにより、利用者は十分睡眠を取ることができ、費用も節約でき、ごみの減量にもつながってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を提供しています。また、体操・散歩などで身体を動かし、自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、木曜日・日曜日に実施しています。身体状況に応じて、一般浴・特浴などの入浴方法で支援しています。	一般浴の利用者はグループホームの浴室を使用し、4名の利用者は隣接の同一法人施設の特浴を利用している。また、ターミナルケアの2名は、毎日の清拭や手浴・足浴でそれぞれ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に関係なく、その方の体調によって常にベッドに横になれるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が一人ひとりの薬を把握し、症状の変化など記録に残し、主治医と連携して内服薬の調整を行っています。職員全員は服薬マニュアルに沿って支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの経験や知恵を発揮する場面を作っています。(編み物、食器洗い等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同一法人施設のリハビリテーションの機械を使用したり、テラスに出て日光浴を行ったり、散歩に行ったりして気分転換を行っています。また、車を使って屋外に出かけたり、ご家族の協力を得た外出を支援したりしています。	利用者の中には同一法人施設のリハビリテーションの機械を使用して運動したりして元気に過ごす方もいるが、車椅子で近所の公園を散歩したり、買い物に出かけたりする利用者も多い。寒い時は、窓越しの日光浴をしたり、室内でのボール投げをしたりしている。ドライブには同一法人の自動車を利用しなければならず、行く機会を増やすことはなかなかできないが、出かけた時にはケーキなどを食べて楽しく過ごすようにしている。	

グループホーム あずさ小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は事業所側で行っています。ご本人の希望に応じた小遣いを預かり、いつでも使用できるようになっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、常に電話はかけられます。また、お礼の手紙や写真を送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日清掃し、衛生面に配慮しています。ホール内は季節の花を飾ったり、暦に合わせた飾り付けをしたりしています。	1階に、床暖房で共用の広いエントランスホール、ダイニングキッチン・デッキ・フリースペースがあり、ゆったりと利用者が利用できるようになっている。日中は1階で過ごし、夜間は2階の居室で就寝するようになっている。廊下の壁面に「今年の漢字」として利用者や職員の漢字が掲示され、温かな雰囲気を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビやソファ、ベッドを置いて、一人ひとりがゆっくりと落ち着いて休んだり、くつろいだり出来る場所を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は毎日清掃し、衛生面に配慮しています。ご本人の使い慣れた備品を持ち込み、使用して頂いています。また、家族写真や贈り物など飾っています。	居室は清掃を委託しているため、清潔に保たれている。タンスは備え付けてあるが、利用者一人ひとりの状況により、エアマットを使用したベッドなどが置かれている。また、本人や家族の意向を受けた家具や備品が備えられ、過ごしやすくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は、目印や分かりやすい言葉で表示しています。見守りや声かけでお互いの疎通をとっています。		